



232名が名取北高を巣立つ

体育館のフロア改修工事に伴い、今年の卒業式は楽楽楽ホールで執り行われました。卒業生232名は多くの祝福の中、新たな未来へと歩み出しました。それぞれの夢に向かって力強く羽ばたいていく卒業生の皆さんの今後の活躍を、心から応援しています。



校長式辞 要旨 宮城県名取北高等学校 校長 石墨 安洋

「人間は考える葦である」という言葉を知っているでしょうか。これは、フランスの有名な学者の一人、ブレイズ・パスカルという人が語った言葉です。この人の名前である「パスカル」は皆さんも聞き馴染んでいる天気予報で用いられている「ヘクト パスカル」として登場します。パスカルは圧力に関する有名な法則を見出した人ですので、その偉業を称えて力に関する単位として彼の名前が用いられています。また、同じく天気予報の中で「雨の降る確率」として使われている「確率」を数学の一分野として体系化したのもパスカルであると言われています。彼は様々な方面でその才能を発揮した人で、物理学や数学だけではなく、哲学やキリスト教神学などでも有名な人物です。先ほど御紹介した言葉の原文を、もう少し丁寧に日本語に翻訳してみると次のようになります。

人間はひとくきの葦にすぎない。
自然の中で最も弱いものである。
だが、それは考える葦である。
人間を押しつぶすために、宇宙全体が武装するには及ばない。
蒸気や一滴の水でも人間を殺すのに十分である。
だが、例えば宇宙に押しつぶされようとも、人間は自分を殺す宇宙よりも尊いだろう。
なぜなら、人間は自分が死ぬことと、宇宙が自分よりも優位にあることを知っているからである。
宇宙はそんなことは何も知らない。
こうしてわれわれの尊厳の根拠は、全て考えることのうちにある。
われわれの頼みの綱はそこにあり、
空間と時間のうちにはない。
空間も時間も、われわれが満たすことはできないのだから。
だから、よく考えるように努めよう。
ここに道徳の原理がある。



葦というのは水辺に生息する茎が細く背丈の高い植物です。普通は一本だけで生えているわけではなく、広い範囲にまとまって生息しています。風が吹けば折れるかのように揺さぶられ、水が上がれば押し流されそうに揺らめきます。

パスカルはこの一見すると弱き植物である葦と人間とを同一視したのです。もっとも葦と人間とを重ねて見ていたのはパスカルだけではなく、元々は旧約聖書や新約聖書の中で人間を葦と比喻しながら表現している文章が散見されており、神学者でもあったパスカルはそれに倣ったと考えるのが自然だと言われています。

パスカルは人を葦とした上で、その存在する意義として「考えること」ができる生物であると言っています。経験していないことであっても、想像し考えることでその痛みや喜び、悲しみを知ることができる、そして、その上で行動をすることで規範としての道徳を守ることができる。それが人間ではなかろうか、とパスカルが問いかけています。

小学校以来十二年間、学校というある意味閉じられた社会の中で時間の多くを過ごしてきた皆さんは、本日をもって一つの大きな区切りを迎えます。上級学校に進学するにしても就職するにしても、社会に対する大きな責任を持って生活をする事となります。嬉しいことや楽しいことだけではなく、壁にぶつかるなどの困難に立ち向かうこともあるでしょうし、様々な誘惑があるかもしれません。それらに対して、ただただ流されるのではなく、一つ一つしっかりと考えることを続け、自分の歩む道を見定めながら進んでください。それが、パスカルの言う「考える」ことによって「規範としての道徳を守る」ことになり、一人の力では支えることが難しい社会ではありますが、一人一人が考え行動することで皆が幸せを享受できる社会になるのです。PTA会報「めいほく」の最後でも記しましたが、皆さんの将来に幸せな明るい光が差し続けることを期待しております。

さて、最後にこの式典に参列してくださった御家族の皆様方、改めましてお子様の高等学校御卒業おめでとうございます。民法が改正され十八歳で成人年齢となったこともあり、卒業生の多くは自らの行動を自らで決定できる権利を得ると同時に社会的な責任を負うべき存在となりました。しかし、一成人としてはまだまだ不安定な部分を抱えていますので、今後も彼らの考えに向き合っていただき、社会の先駆者としてその進むべき道とともに歩んでいただけることを願い、私からの式辞としたいと思います。

卒業生答辞 卒業生代表 及川 歩紀

桜の木の枝に小さな赤い芽が付き、春の準備を始める季節となりました。冬を惜しむように寒さが残る今日ですが、少しずつ暖かい風が吹き始めています。

本日は、私達のために、このような式を挙げてくださり、誠にありがとうございます。また、ご多忙の中ご臨席くださいました、校長先生をはじめとする先生方並びに保護者の皆様へ、卒業生一同心より御礼申し上げます。

私たちは新型コロナウイルスの感染拡大が続く 2022 年に入学しました。1 学年 2 クラスの小さな中学校を卒業した私にとって、1 学年 6 クラスの名取北高校はとて大きな世界でした。その中でマスクで覆われ、顔を見ることができないクラスメイトを見て、3 年間このままなのだろうか、友達ができるのだろうか、不安でいっぱいだったことを昨日のこのように覚えています。しかし、幸いなことに制限はありましたが、体育祭、文化祭を開催することができました。制限がある中でも一人一人が真剣に学校行事に取り組み、クラスの仲を深められたのは今でも良い思い出です。

2 年生になると、新型コロナウイルスは五類感染症になり、学校生活も本来の姿を取り戻しつつありました。様々な学校行事に取り組めた 1 年間でしたが、その中でも一番の思い出は修学旅行です。私は新型コロナウイルスの影響で中学校の修学旅行は例年と異なる場所に行くことになりました。そのためこの修学旅行はどの学校行事よりも待ち望んでいたものです。3 泊 4 日という短い時間を通して初めての体験や沢山の学び、綺麗な景色を共有したり、クラスメイトや他のクラスの友達と話し、笑い、楽しい時間を過ごしたりと、一生心に残る思い出を作ることができました。

そんな楽しい日々はあっという間に過ぎ、3 年生になりました。毎日楽しみにしていた部活動、大変な仕事も多かったけれどやりがいのあった生徒会を引退し、受験に本腰を入れると共に、全てに「最後の」がつく学校行事が過ぎていきました。寂しさを感じることも多くありましたが、この寂しさは決して悪いものではありません。授業や定期考査の勉強に真剣に取り組めたこと、部活動や学校行事に全力を出せたこと。3 年間の日々を一生懸命に過ごしたからこその寂しさです。そんな日々を過ごせたのは、紛れもなく友達のおかげです。勉強が得意な人、スポーツが得意な人、面白い人、私にはできないことを平気でやってのける人、私は周りに恵まれていました。辛い時にはげましてくれたり、沢山話して笑い合い、時には喧嘩をしたり。どんなときも一緒にいてくれた友達には感謝の気持ちでいっぱいです。

本当にありがとう。

また、この 3 年間、私たちの学校生活を支えてくださった先生方、職員の皆様、今までありがとうございました。どこの大学を受験するか私自身もわからなくなっていた時に助けとなったのは先生方です。私達の知らない所で苦勞されたことも沢山あると思います。ですが、私達に親身になって向き合ってくくださったおかげでこの日を迎えることができました。

そして、どんなときでも一番近い距離で見守ってくれた家族へ。毎朝笑顔で送り出してくれたこと。家族がいたから頑張れたことがたくさんあります。18 年間大事に育ててくれて本当にありがとうございます。これからもお世話になるとは思いますが変わらず温かく見守っててください。

私達は本日をもって名取北高校を卒業し、新たな道を歩みます。ここで出会えた先生方、友達との別れは寂しくもありますが、3 年間の思い出が消えることはありません。この思い出やこれまでの経験を糧に自身の道を進んでいきます。

そして、春から支えてくれる人々への感謝の気持ちを忘れず、自分らしさを大切に悔いのない人生を歩んでいきます。

結びになりますが、今まで私達の学校生活に携わってくださった全ての方々に御礼申し上げますと共に、名取北高校の益々の発展を心より祈念し答辞といたします。



◎年度末の予定◎

- 18日(火) 1～6校時1、2年課題テスト
- 19日(水) 1～4校時
- 21日(金) 1、2年探究学習発表会
- 24日(月) 大掃除・賞状伝達式・終業式(午前)
- 25日(火) ～4月7日(月) 春休み
- 25日(火) 高校入試合格者予備登校

終業式

- 28日(金) 離任式・退任式 新クラス発表
- 9:30 生徒登校
- 11:10～ SHR・清掃・下足移動
- 教科書受取
- 副教材受取
- ※支払はコンビニ振込

